

音楽科 学習指導案 多目的室	「役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう」 日時:令和7年10月〇日(〇)第〇校時 指導者:〇〇 〇〇 児童:第6学年〇組
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------

1 題材の構想

題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴を、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。 ○ 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 ○ 役割のよさや面白さを生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、五音音階を用いた音楽づくりに親しむ。
[指導事項との関連] A 表現(3) 音楽づくりア(イ)、イ(イ)、ウ(イ) 共通事項ア [児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素] (ア) 音楽の縦と横との関係	
題材・教材について	<p>本題材は、音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴を、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、パートごとの役割を生かしながらドローン、オスティナート、呼びかけとこたえといった音楽の仕組みを用いて音楽をつくる活動を通してどのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもち、五音音階の特徴や役割の面白さを生かして表現することに親しむことをねらいとしている。</p> <p>本題材で扱う音楽づくりは、五音音階を用い、多くの様式の音楽に出てくる「ドローン」と「オスティナート」を重ね、その上に旋律を呼びかけ合う形で構成する。ドローンの持続低音の繰り返し音が音楽全体を支え、音が少なく単調な動きであっても音楽のリーダー的な存在であることを意識しやすい。また、音楽の進み方、重ね方を工夫することで生み出される音楽の面白さを感じ取らせることができると考える。</p> <p>また、五音音階は、西洋音階に比べどのようにつなげたり重ねたりしても不協和音になりにくい特徴をもち、児童がグループで試行錯誤し、パートの役割を意識しながら音楽をつくるのに適している。</p> <p>楽器には、平調子や民謡音階の五音音階に調弦した箏を用いる。箏は調弦することでいろいろな音階にすることができ、児童が安心して音楽づくりに取り組むことができると考える。</p> <p>本題材の学習を通して、児童が現在取り組んでいる伝承話の紙芝居に付けるBGMづくりの手掛かりの一つとすることができると考える。</p>
児童の実態	<p>本学級の児童は、5年生「いろいろな言葉で音楽をつくろう」の学習で、雪の降る様子を表す「しん」という言葉を組み合わせ、まとまりのある音楽をつくる学習してきている。児童は、音色や音高、長さなど「しん」の表現を工夫するとともに、重ね方や進み方を工夫しながら、音楽をつくることができた。</p> <p>パートの役割については、器楽合奏の学習において、パートの役割を意識しながら、音を合わせる学習をしてきている。パートの特徴やの重なりについてある程度理解してきているが、十分でない。</p>
研究の視	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちが見方・考え方を豊かに働かせる手だての工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ パートの役割について実感を伴って理解することができるように、それぞれのパートを体験する場を設定する。 ・ パートの役割を理解し音楽をつくる手掛かりとするために、役割ごとや4つのパートを合わせた模範演奏を視聴する場を設定する。

点と関連した手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生き生きと学び合うための指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が安心して、自由に音を使って旋律をつくることができるように、民謡音階に調弦した箏を用いる。また、音階を自ら変えることができるように、龍甲に印を付けておく。 ・ 思いや意図にあった音楽づくりができるように、グループで各パートの縦と横との関係の移り変わりを試行錯誤する時間を十分確保する。 ○ ICT 活用について <ul style="list-style-type: none"> ・ 録音・録画機能を使用し、グループのつくった音楽を客観的に聴いて工夫する手立てとして、他のグループと共有したりできるようにする。 ・ ワークシートやオクリンクプラスを活用し、グループで音楽の縦と横との関係など音楽づくりの情報を共有できるようにする。 ・ 振り返りをムーブノートで行い、他者と共有して学びを広げたり、いいねやコメントを活用して学習意欲を高める。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標との関連

学校教育目標	「社会性を身に付け、学び合い共に育つ子供の育成～Shine Smile Step～」
関連した学び	・ 一人一人が役割を分担し、思いや意図を共有しながら試行錯誤して音楽をつくりあげること、共に学び合うよさや喜びを味わう。

3 題材の評価規準（評価方法）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知】 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。 （発言・聴取）</p> <p>【技】 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けている。 （観察・演奏の聴取）</p>	<p>【思】 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（発言・聴取）</p>	<p>【態】 役割のよさや面白さを生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 （行動観察・記述）</p>

4 教科等横断的な視点で見た、音楽科との関連について


教科	学習内容
国語科	<p>「文章を推敲しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解する。 <p>「古典芸能の世界 狂言『柿山伏』」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知る。 ・ 親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。 ・ 狂言を音読したり、演じたりする。
図画工作科	「言葉から想像を広げて」（伝承話紙芝居づくり）

	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝承話「天狗のおはなし」の紙芝居制作を通して、物語から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように場面の様子を表すかについて考える。
総合的な学習の時間	<p>「鈴張の過去・現在・未来」（伝承話紙芝居）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史を学び、地域の伝承話を紙芝居にして伝える活動を通して、地域の人とつながり、自分たちが住む地域を見直し、地域への愛着を深める。



5 指導と評価の計画（3時間）

時	○学習内容・学習活動	知・技	思	態	○全体への指導・支援 ※努力を要する状況と判断されそうな児童への働きかけ
第1時	<p>◎ 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴（パートの役割やその重ね方の特徴）について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解する。</p>				
	<p>【常時活動】 「箏でティンカリング」</p> <p>○ これまでの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの演奏の動画を視聴し、紙芝居のBGMづくりについて振り返る。 これまで学習してきた合奏のパートの役割について振り返る。 				<p>○ 箏の奏法に慣れるとともに、音楽の学習の雰囲気をつくる。</p> <p>○ BGM づくりの進み具合や困っていることなどを共有する。</p>
	<p>【めあて】パートの役割の特徴をつかもう。</p> <p>○ 模範演奏の動画視聴や、実際に演奏することを通して、「ドローン」や「オスティナート」「呼びかけとこたえ」などの役割の特徴に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ドローン」「オスティナート」「呼びかけとこたえ」を、それぞれ演奏する。 				<p>○ 「ドローン」や「オスティナート」は演奏しやすい音型を扱うと共に、口頭で箏の弦の名前を提示する。</p>

第1時	<p>○ 役割を様々に重ねながら演奏し、役割の特徴について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドローンと呼びかけとこたえ、ドローンとオスティナートなど、いろいろな入り方や重ね方を試す。 <p>○ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役割の特徴や重ね方について気付いたことや思ったことを記入する。 	知 (発言・聴取)		<p>※知 パートの役割の特徴について理解が難しい児童には、他の児童の気付きについてどう思うか尋ねたりする。</p> <p>※態 役割の重ね方の演奏に主体的に取り組みにくい児童には、具体的な音型を示して試すことができるようにする。</p> <p>○ ムーブノートで振り返りを共有する。</p>
第2時 本時	<p>◎ 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>【常時活動】 「箏でティンカリング」</p> <p>○ 前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役割やそれらを重ねた時の特徴「ドローン」「オスティナート」「呼びかけとこたえ」について、確認する。 <div data-bbox="245 1234 799 1350" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【めあて】 役割ごとのよさを生かしながら、 入る順番や重ね方を工夫しよう。</p> </div> <p>○ どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽をつくるルールを確認し、見通しをもつ。 <div data-bbox="245 1541 799 1877" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ルール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ドローン、オスティナート、呼びかけとこたえの役割に分かれる。 2 各パートの入る順番や重ね方など、縦と横との関係を工夫する。 3 始め-中-終わりの、移り変わりを意識してつくる。 </div> <p>○ 役割を決めて、音楽を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体のまとまりを意識した音楽にするために、どのような構成にするか、グループで大まかに考える。 			<p>○ 箏の響きの重なりから生まれるよさや面白さを実感できるように、様々な重ね方が体験できる活動を取り入れる。</p> <p>○ 前時までの学習を想起できるように、重ね方の図を提示したり、実際に、「ドローン・オスティナート・呼びかけとこたえ」を演奏したりする。</p> <p>○ 縦と横との関係を工夫す手掛かりの一つとなるように表で表す。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に音を出して試行錯誤しながら、どのような音楽をつくりたいか工夫する。 ・ 困っていることを共有したり、他のグループの音楽を聴いて、自分たちの音楽に生かしたりする。 <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動を振り返りながら、工夫したことをムーブノートに記述する。 	 思 (発言・聴取)	<p>○ パートの入る順番や重ね方に思いや意図をもつグループを取り上げ、価値付ける。</p> <p>※思 重ね方について工夫することが難しい児童には、他のグループの表現を聴かせたり、友達の考えを試し、どう思ったか尋ねたりする。</p> <p>※技 重ねて演奏することが難しい児童には、ワークシートを指し示したり、そばで声掛けするなどの支援をする。</p> <p>※態 グループでの音楽づくりに主体的に取り組みにくい児童には、友達の助言や教師の範奏を演奏して試すように助言する。</p> <p>○ 記入が難しい児童には、他者参照するように促す。</p>
<p>◎ 思いや意図に合った表現をするために必要な、「ドローン」「オスティナート」「呼びかけとこたえの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。</p> <p>【常時活動】 「箏でティンカリング」</p> <p>○ 前時までの学習を振り返り、見直しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】 グループで順番や重ね方をさらに工夫して音楽をつくろう。</p> </div> <p>○ 前時でつくった音楽を聴き合い、グループの音楽に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループの音楽を演奏したり、録音したりする。 		<p>○ 箏の奏法に慣れるようにすると共に、いろいろな重ね方を体験できるようにする。</p> <p>○ 前時までの学習を想起できるように、グループのワークシートを提示したり、振り返りを紹介したりする。</p> <p>○ 児童の前時の振り返りから、めあてを設定する。</p> <p>※技 思いや意図にあった表現が難しい児童には、ワークシートを指し示したり、そばで声がけするな</p>

第3時

<ul style="list-style-type: none"> 各グループの音楽を聴き合い、意見交流する。 ○ 他のグループの意見を基に、さらに工夫して音楽をつくる。 つくった音楽を録音して客観的に聴いたり、記録に残したりする。 ○ 学習の振り返りをする。 音楽づくりで学習したことについて振り返り、ムーブノートに記述する。 	 技 (観察・聴取)	 態 (行動観察・記述)	<p>どの支援をする。</p> <p>※態 学習を振り返ることが難しい児童には、ワークシートを見たり、録音を聴いたりして振り返るように促す。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

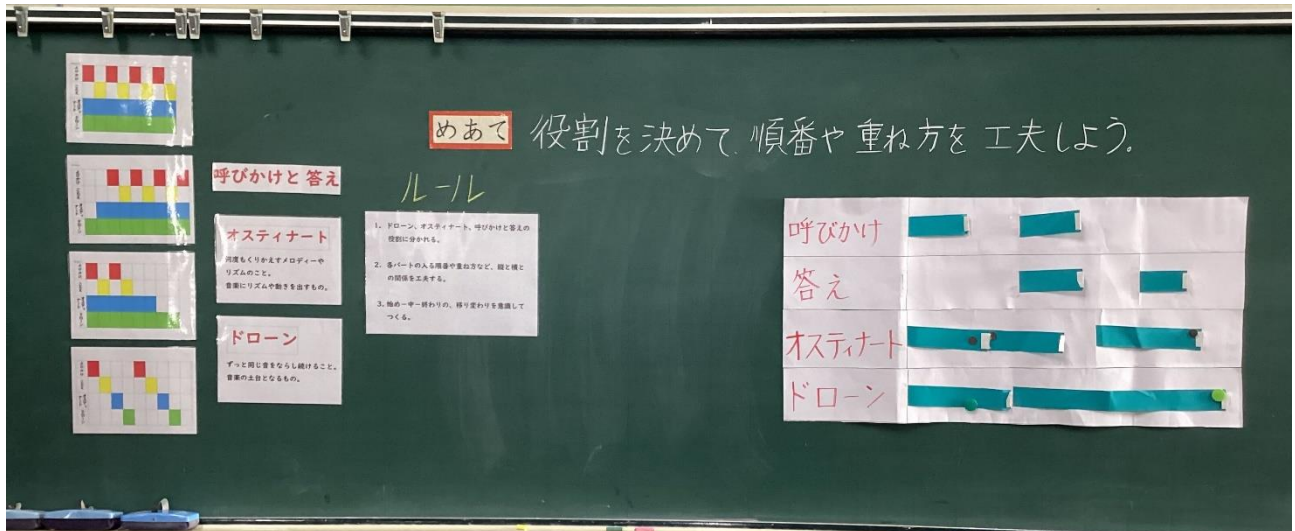
6 本時の目標 パートの入る順番や重なり方が生み出すよさを感じ取りながら、どのように工夫するかについて思いや意図をもつ。

7 本時の展開 (2/3時間)

学習活動	○教師の働きかけ(指示・説明・発問) 予想される児童の姿(・)	○教師の支援
1 常時活動	「箏でティンカリング」	
2 前時までの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの授業を思い出しましょう。 自分たちのつくった紙芝居のBGMに音の重なりをつくって、音楽にしていきたい。 役割(パート)にはドローン、オスティナート、呼びかけとこたえがある。 パートを重ねるときれい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 箏の奏法に慣れるようにすると共に、いろいろな重ね方を体験できるようにする。 ○ 前時までの学習を想起できるように、実際に、「ドローン・オスティナート・呼びかけとこたえ」を演奏したりする。
3 めあてを設定する。	【めあて】 役割ごとのよさを生かしながら、入る順番や重ね方を工夫しよう。	
4 音楽づくりのルールを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ パートの入る順番、重ね方を工夫して音楽をつくりましょう。 ○ 音楽づくりのルールを確認しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の前時の振り返りから、めあてを設定する。 ○ 音楽の縦と横との関係を工夫する手掛かりの一つとなるように図で表す。
5 音楽づくりの見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで役割を決め、どんな音楽にするか考えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽づくりについてグループで共有するために、ワークシートやオ
3 めあてを設定する。	【ルール】 <ol style="list-style-type: none"> ドローン、オスティナート、呼びかけとこたえで音楽をつくる。 始め、中、終わりの構成にして、まとまりのある音楽にする。 各パートの入る順番や重ね方など、縦と横との関係を工夫する。 	

学習活動	○教師の働きかけ(指示・説明・発問) 予想される児童の姿(・)	○教師の支援
6 グループで音楽を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音の重ね方を工夫して、重なるところと重ならないところをつくりたい。 ・ 終わった感じを出すため、最後は全員で重ねたい。 <p>○ 入る順番、重ね方を工夫して試しながら、音楽をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は静かな感じにしたいから、ドローンは低い音にしてオスティナートだけ重ねよう。 ・ だんだん盛り上げていきたいから、間をあげずに音を重ねていこう。 ・ 重ねている音を一つずつはずしたら、落ち着いた感じになるね。 ・ 思いや意図に合っているか録音して聴いてみよう。 	<p>クリックプラスを必要に応じて活用するように促す。</p> <p>○ 入る順番や重ね方に思いや意図をもつグループを取り上げ、価値付ける。</p> <p>※思 入る順番や重ね方について思いや意図をもつことが難しい児童には、友達の考えを試し、どう思ったか尋ねる。</p> <p>※技 思いや意図にあった表現が難しい児童には、ワークシートを指し示したり、そばで声がけするなどの支援をする。</p> <p>※態 グループでの音楽づくりに主体的に取り組みにくい児童には、友達の助言や教師の範奏を演奏して試すように助言する。</p> <p>○ 児童の表現の工夫や変容をとらえて価値付け、全体で共有する。</p>
6 学習を振り返る。	<p>○ ()班の音楽を聴いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 始め、ドローンだけで長めに演奏していて不気味な感じが出ている。 ・ 途中で、全部の役割を重ねていて、迫力がある。真似してみたい。 ・ 自分たちのグループもさらに工夫してみよう。 <p>○ どのようなことを考えながら、工夫して音楽をつくったか、振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音を順番に重ねると、盛り上がった感じを出せた。 ・ 最後にみんなて音を重ねると、終わった感じが出せた。 ・ 最後はドローンだけで終わらせると、余韻を残して終わらせることができた。 	<p>○ ムーブノートで振り返りをし、他の児童の振り返りを共有したり参考にしたりできるようにする。</p>

7 本時の板書計画



【授業の視点（協議の柱）】

- ① 児童は、本時のねらいに向けて、生き生きと学び合うことができていたか。
- ② ①のための教師の手立ては、有効だったか。
(教材、教具の工夫・発問・場の設定など)
- ③ 教科等横断的視点やカリキュラムマネジメントは児童が生き生きと学び合うために有効だったか。
さらによくするためには、どのように工夫することが考えられるか。